

| | |
|----------|--|
| 対象 | 中学校以上 |
| 教科 | 家庭科 |
| 該当 単元 | <p>〈中学2・3年〉</p> <p>「幼児の体の発達」</p> <p>「幼児の生活と 遊び」</p> <p>・ 幼児の体の発達</p> |
| 教科書 | 東京書籍・開隆堂等 |
| 掲載日 | 2014.6.19. 朝刊12版 1面 |

ボタン電池 子の誤飲注意

短時間で食道や胃に穴

おもちゃや電子機器に使われるボタン電池を子どもが誤って飲み込み、医療機関で受診した事故情報が二〇一〇年十二月から今年三

月までに全国で九十三件報告されたとして、消費者庁は十八日、注意を呼び掛けた。

ボタン電池を誤飲すると、一時間ほどの短時間でも食道や胃に穴が開く恐れがあるが、重症化すると知らない親も多い。同庁は「誤飲したかもしれないと思ったら、すぐに病院を受診させて」としている。

消費者庁によると、九十三件には誤飲の疑い例も含まれ、入院が必要な例が十件あった。年齢別では、自力で動き始める一歳児が五十四件で最多だった。

乳幼児の場合、電池は食道にとどまることが多く、周囲に電流が流れてアルカリ性の液体がつくられ食道の壁に潰瘍ができたり、穴が開いたりする。胃に落ちると胃酸で腐食し、内部の物質が流れ出る危険もある。

一三年八月、発光ダイオード(LED)ライト付き耳かきの電池を誤飲した東京都の一歳男児は、病院で九時間後に取り出したが、気管と食道に穴が開いて二カ月間入院した。〇四年には合併症による死亡事故も起きている。

同庁が三月、三歳以下の子がいる母親三千二百四十八人にインターネットを通じて行ったアンケートでは、ボタン電池の誤飲で重い症状が出る危険があることを知らなかった人が約六割に上った。

問1：乳幼児がボタン電池を誤飲した場合、食道にとどまった場合と、

胃に入った場合の危険性を、まとめてみましょう。

食道：

胃：

問2：2010年12月から今年3月までの報告で、子どもたちのボタン電池誤飲（疑いを含む）の中で、一歳児の割合は約何%でしょう。

(約 %)